

目次

- 1 まえがき
- 2 第1部 ラムダ委員の活動紹介
- 18 第2部 ラムダ委員と学生の座談会
- 27 編集後記

津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議

令和3年に世界文化遺産登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」が双方のエリアを一つの文化圏とみなしたように、津軽海峡は遙か昔から青森県と北海道を結ぶ架け橋になってきました。青函連絡船が行き来した時代を経て、平成28年には北海道新幹線が開業。迎えた時代の節目とともに、青森県では津軽海峡を挟んだ道南地域までを一つの圏域とする「津軽海峡交流圏」の形成に向けて、平成25年度から「λ(ラムダ)プロジェクト」に取り組んでいます。

プロジェクト名の「λ(ラムダ)」は、新函館北斗駅から新青森駅を通り八戸駅へと至る新幹線ルートと、新青森駅から弘前駅へと続く奥羽本線ルートを合わせた形が、ギリシャ文字のλ(ラムダ)に似ていることに由来。要所となる青森市、弘前市、八戸市、さらには青森県内4つ目の新幹線駅・奥津軽いまべつ駅周辺地域、下北地域などを含めた青森県全域と、道南地域との交流促進を目指しています。

プロジェクトの核になる「青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議」は、平成25年度から28年度までの4年間、青森県にゆかりある委員が参画し、圏域内の活性化や圏域外からの交流人口増加などを目的としながら活動を進めてきました。平成29年度からは新たに北海道からも委員が選出され、「津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議」として連携を強化。過去の事例にとらわれない様々な提案とともに委員自らがあらたな流れを生み、先頭に立って行動する中、津軽海峡交流圏の輪が広がっています。



津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議ホームページ

<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kikaku/kotsu/ramudasakusenkaigi.html>

